

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30<sup>6m</sup> 1 2 3 4 5

393

560

渡邊巳之次郎著

# 震災後の日本

国際乞丐か自助自立か

# 始



393-560



渡邊巴之次郎著

震災後の日本

國際乞丐か自助自立か

大正  
12.11.3  
内交

## 自序

何も『天下の憂に先つて憂へ、天下の樂に後れて樂む』といふ愛國者を氣取る譯ではないが、近來日本の國際的位置の面白くない所へもつて來て今回の大震災災が現れた、シカも之に關する帝都復興の聲の内には大に警戒すべきものがある、大事變の際とて冷靜を失つたものゝ聲のやうではあるが、所謂衆口金を鏝かすとすると再び濟ふことが出來ないのを恐れる。乃ち廿三日の晩から咄嗟筆を執つて卑見を陳じた次第である。夏には冷を懐ひ、冬には暖を念ふ、復興論の炎燄に對して一斗の冷水を灌ぐも、亦無用の業ではあるまい。

大正十二年九月廿七日擱筆に臨み

娛碌閣主人識す

# 震災後の日本

國際乞丐か自助自立か

## 目次

- (一) 富強の夢は破る 華府會議……………一  
    憐むべき日本の境遇
- (二) 軍備制限精神の一空……………一二  
    亦これ佛英米の素志のみ
- (三) 日本左右の強壓……………三五  
    日本官民の無忠慮と油斷

目次

- (四) 泣面に蜂——大震災大火災……………四一  
天譴も亦甚だしきに過ぐ
- (五) 喜ぶべく憂ふべく恐るべき外國の同情……………四七  
自奮自立と乞丐的墮落との岐路
- (六) 國際的乞丐より亡國へ……………五九  
好餌を慕うて罠に入るもの
- (七) 官民今後の覺悟如何……………六七  
臥薪嘗膽的自奮自立あるのみ

(大 尾)

# 震災後の日本

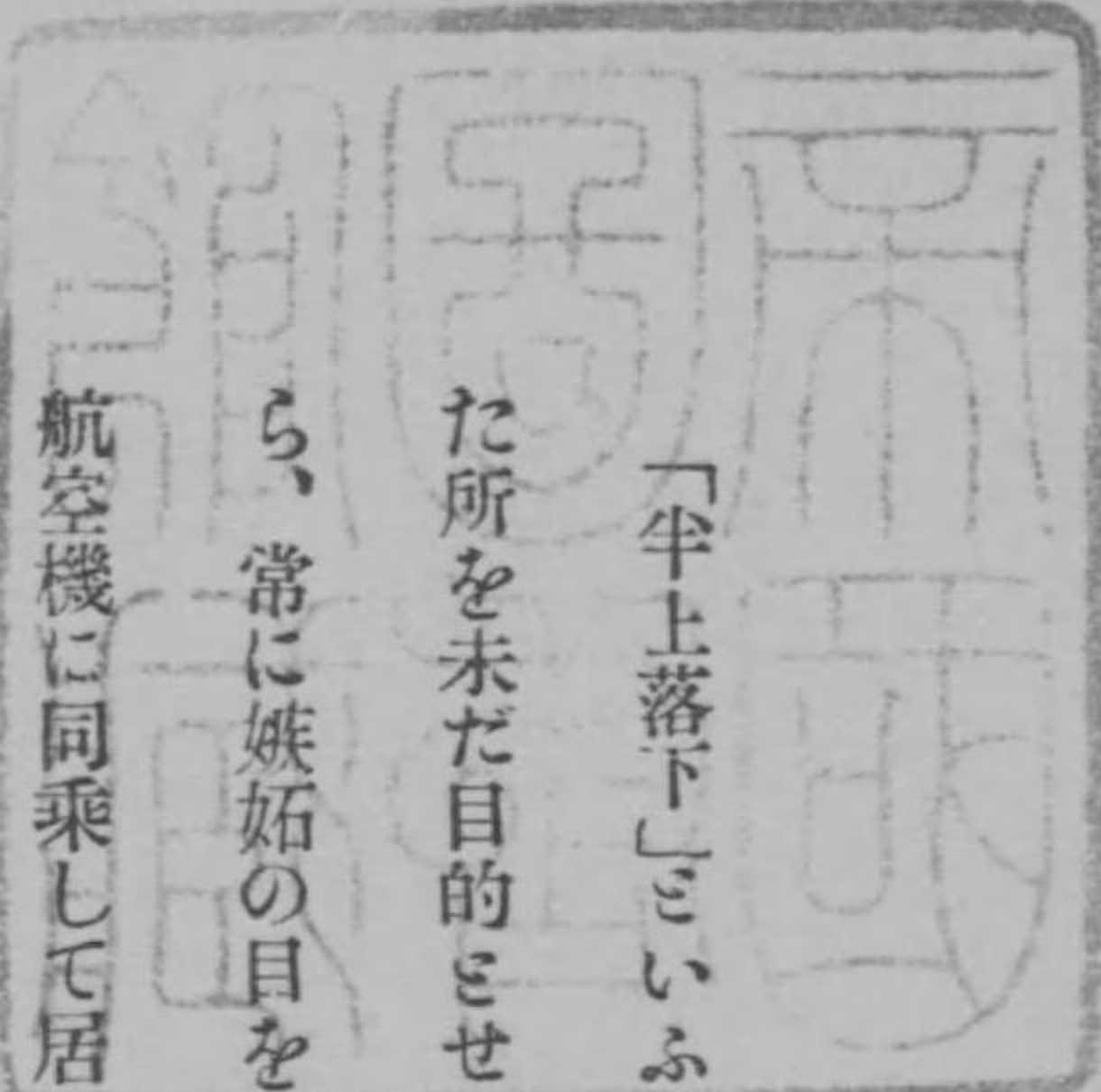
國際乞丐か自助自立か

渡邊 巳之次郎

くだらぬいもね

(一) 富強の夢は破る、華府會議

憐むべき日本の境遇



「半上落下」といふ言葉があるが、日本の今日の位置は正にソレである、折角上昇しかけた所を未だ目的とせる天に達せず一轉して途中から墜落的方向を取りつゝあるのであるから、常に嫉妬の目を以て見て居た見物人は喜んで快哉を叫ぶかも知れないが、日本といふ航空機に同乗して居る吾々は、實に肝膽を寒うせざるを得ず、竦然として毛髮の逆立するを覺ゆるのである。

歐洲戦争の後、日本は實に世界五大國の一に列し、太平洋方面では三大國の一になつたといつて、政府の當局は自分の手柄でもあるかのやうに機會ある毎に之を宣傳し、國民も

(一) 富強の夢は破る、華府會議

亦善い氣になつて爾く信じて居た。誠に目出度かりける次第であつたが、歐洲諸國は戦争で以てスツカリ疲弊して容易に回復することが出來ず、流石其領土に太陽の没することなきを誇れる英帝國すらも、内憂外患、交々至るといふ有様で、大に其手腕を世界政策に伸ばすの餘裕なく、國帑も空乏して産業貿易の興隆に死力を盡して他を顧みるの暇がないのであつたから、米國を除いては、日本は實に世界の一大富強國となつたかの如くに思はれたのである。官民相率ゐて一時榮華の夢に耽り、太平樂を弄ぶの餘り、階級鬭争といふが如き鬭牆的愚劣事すら演出して、恬然として尙悟らなかつたのも偶然ではなかつた。

此の如き日本官民であつたから、人種平等の主張が、ウエルサイユで、ウキルソン氏の不法なる議長振、不道理なる詭辯のために敗れても、深く意に介せず、咽喉元過ぐれば熱さを忘るゝの態で、宛も轉寢の夢でも見たかのやうに平然葬り去つたのも無理ではない、

何故にウキルソンがコンナ態度で無理を通したかといふ原由を遡求して、奮起の大決心を固めねばならぬといふことを悟つたものが幾人あつたか、覺束ない次第である。

此の如き日本官民であつたから、華盛頓の労働會議も、名を人道に假りて勞資の抗争を助成し、日本及び東洋民族諸國の經濟的、産業的發達を抑へるための、方便に利用せられた點が多いといふ事をも、悟つたものは少いやうであつた。労働者の状態改善は急務中の急務で、吾人の同情禁じ得ない所であるが、日本及び東洋諸國の産業的發達も亦急務中の急務に屬する。従つて現に日本の世界に處する位置を知つたならば、資本家も、労働者も互讓、協調、相助の精神を發揮し、表に人道を唱へて裏に勞資の鬭争を起させるやうな、一石を以て二鳥を打つ外人の詭計にかゝらないで濟んだであらうに、偏執者や、賣名者や、空論家や、無理解者や、我利々々屋などの多くて、日本民族の世界的前途に精察と憂慮と

計畫をもつもの、少いために、思想界の混亂、勞資界の衝突を來し、之が爲に損する所は多くして得る所は極めて少なく、畢竟一石二鳥主義の犠牲となつて尙目が醒めぬといふ状態に陥つたのは、遺憾の極である。「敵國外患なければ國常に亡ぶ」とは確に金言である。否、我邦の如きは常に敵國外患の重大なるものがあるのであるが、ソレが直接でなく又明に見わぬために、敵國外患なきものとして、所謂噴火山上の舞踏をして居るものが多いのであるから、我ながら危険を感ぜざるを得ない。「狼來れり」と叫んで警告しても、多數の目には其狼が見えず、叫ぶものを以て嘔吐きとし、自ら取殺さるゝに至つて初めて氣が附くといふ風であるから、眞に心細い、シカも此狼は送り狼の類であるから、識者も往々其親切に迷はされて犠牲となることがあるのである。

けれども、一たび華盛頓會議の結果を見たものは、富強の夢頓に破れて、果敢なき榮華

の成行を豫想せずには居られなかつたであらう。日本は沙羅双樹の花ではないが、必衰の色は確に此時に現れた。日本の半上落下は實に此時に始まつたので、華府會議は日本に取つて祇園精舎の鐘の聲であつた。

或者は此華盛頓會議の結果を以て、又其内の海軍制限の協定を以て、天佑が日本を救つたものと稱し、或者は當時の加藤全權の明敏と機略と英斷とを激賞して止まないものであるが、共に慨嘆すべき限りである。或は日本は天佑によつて一時救はれたとも見ることが出来る、或は加藤全權の功勳であるとも見ることが出来る、又吾人は敢て此見方を拒むものではないが、此評者が、何故に華盛頓會議が開かれたか、華盛頓會議の眞精神はドコにあつたか、といふことを反省探究せず、又此評者が、何故に日本が唯々諾々として米國の提案のまゝに屈從せねばならなかつたか、といふ其根本に遡つて吾人の慨歎せる理由



と事情を考慮せぬこと又考慮してもソレを闡明せぬことを慨歎せざるを得ない。

私は大正九年末において日本の國際的位置の危きを憂慮して止む能はず、其結果として、拙著「孤立的日本の光榮」なるものを公にし、其内に英米兩國の形勢と兩國の爭覇的對抗の状態とを叙述し、其中間に介在する日本の難位置に説き及ぼして

米國の對外政策の眼目は(一)日英の間を割いて互に争はせるか(二)日英の離隔に乗じて先づ日本を討ち、更に英國に向ふといふ所謂各個擊破の方法を取るか(三)日本を味方にして英帝國の破壊を行ふか、此三策の外に出でないやうに思はれる。而して米國は今此三策について併行的方針を取つて居るやうに見ゆる

といふ事を述べて置いたが、不幸にして此觀察は適中したのである。華盛頓會議は即ち此三策を同時に並び行つて其目的の一端を達したものといはねばならぬ。華盛頓會議の結果

に満足する評者は、果して此に考到したであらうか。

又此華盛頓會議當時における日本の對外精神をして不一致に陥らしめ、日本國民をして儉安姑息に流れしめ、米國の提案に屈從せざるを得ざる状態に日本を導いた責任者は、此評者を初めとして、吾々日本國民の内に、少なからず之あるものと思はれる。人種平等問題を雲煙の如くに送迎し、一石二鳥主義を我が味方の如くに歓迎し、心を眼前の安樂と榮華とのみに奪はれて、日本國民として、日本民族として、遠き將來を考へなかつたものなにも、亦此對米屈從の責任を分擔すべきものではあるまいか。華盛頓會議の結果に満足せる評者は、果して此に考到したであらうか。

抑も華盛頓會議の結果はドウであつたか。(一)米國は公然と日英の離間に成功し、日英同盟(度々修繕を経て雨漏りの多い舊屋の様ではあつたが)を完全に破壊して、對英爭覇戦に

凱歌を挙げ、同時に日本をして名實共に孤立に陥らしめたではないか(二)軍備縮小に関する主力艦制限の一事は、亦米國の大成功で、之が爲に日本は其比率において不當の讓歩を強ひられたのである(三)シカも主力艦制限をしたが爲に米國の軍艦は總てパナマ運河を通過し得る程度のものとなり、艦隊の太平洋集中に絶對的便宜を得、一切の艦隊を以て直に日本に對抗し得るに至つたのではないか、是等の點において日本は正に米國のペテンに懸つたといふべきである(四)日本の小笠原や、臺灣、澎湖は、米國の比律賓、グアム、英の香港など、共に、防備を現状以上に進めることは出来ないこと、なつたが、布哇は此制限外に置かれ、米國の太平洋雄躍の根據地として必要なだけの防備を加へることを許されたではないか、恰も日本の手足を縛して置いて横腹に長槍を擬するが如きものである、凡そ脅威として之より大なる脅威はあるまい(五)殊に支那方面に関する日本の慘敗は非常なもの

であつた。讓るべからざるものまでも讓つた、山東還附や、郵便電信に関する特權は勿論の事、其他總ての特權は、自ら止むを得ずとして殆んど諦めて居た其支那の爲に取返されたのではなくして、門外漢たる米國の爲に取上げられたのであつた。日本は支那における競走者として短小漢ではあるが、米國よりもスタートにおいて勝つて居たが爲に、遙に米國を後に見て優位を占めて居たのであるが、米國はソレでは自分に不利だといつて競技に茶々を入れ、亂暴にも日本の足に毘をかけて引倒し、ソレから長大の健脚を以て新に競走を仕直さうといふのである、而して日本がグヅグヷいへば、支那を棒組として日本を殴り倒さうといふのであるから、肝玉の小さい日本の當局は、此一喝に縮み上つて、御無理御尤も屁古垂れて仕舞つたのである。而して多くの日本國民も亦これを傍觀して、當然過ぎる程當然のやうに思つて居たのであるから、吾人は實に驚き且呆れざるを得なかつた。日本國民

も一時天魔のために魅入られて、敵愾心も民族思想も、茫乎として霧の如く霞の如く朦朧たるものとなつたものと見ゆる(六)けれども、之を實行せる當局、之を是認せる人々は、支那の對日感情これより一轉して善化すべしと思つて居たのであるから益々御目出度いといはねばならぬ。『日本與し易し、聲を大にして内外に訴へ、日本に迫らば、日本は更に退却するであらう、ヨシ退却せずとも、日本を苦め、自家の地位を善くすることが出来る』と思つた支那の職業政治家輩は、此機會を逸せずして旅、大還附要求と出かけて來た。此に至つては如何に正直小膽な日本當局と雖も、山東問題や、郵電問題の如くに、オイソレに應ずる譯に行かず、斷乎として之を拒絶した。ところが歐戰に長けた支那人は、ヨシさらばといつて日貨排斥の煽動に出で、長沙を最として、長江一帶から北支一般、盛に之を行ひ、南は福州、厦門に及び、一時日本の商工業者をして顔色を失はしめた。之と反對に恬

然たる顔色を以て之を傍觀して居たものは、英米其他の外國商人であつた。而して日支の關係は一層悪化した。而して日本官民共に其施す所を知る能はずといふ有様であつた。

事の成行の此くあるべきは華盛頓會議の最中に公にした拙著『華盛頓における日本の敗戦』において豫言した通りであるが、流石強辯論說に巧なる當局と雖も、華盛頓會議の成功を對支關係に誇ることは出来ないで、若し華盛頓會議に屈從して置かなかつたならば、日本の國際的位置は更に困難であつたらう、なき、テレ隱しをいうて自ら慰めるの外はないやうである。コレは果して五大國や三大國の一たるもの、面目であらうか、一時米國と並立したと己惚れた富強國の爲體であらうか、賢明なる日本官民も自ら顧みて慚然たらざるを得ぬであらう。ところが此半上落下の大ショックに逢うて、更に之を以て日本大飛躍の回轉飛行であると誤認したものが多かつたのであるから、益々驚かざるを得ない。吾人

は此時重ねて、日本の傳統的精神は何時の間に國際的乞丐となるを耻とせず寧ろ之を榮とするが如き傾向を帯びて來たかを思うて悲しまざるを得なかつた。

### (二)軍備制限精神の一空

亦これ佛、英、米の素志のみ

『夢なら醒めな』といふことがあるが、人生意の如くならず、好事は魔多く、好夢は醒め易い。華盛頓會議の結果として海軍の擴張競争は中止せられ、平和を愛するの念は益盛に各國民の腦髓を支配し、お蔭で日本も海軍擴張の費用を平和的文明の事業に轉用し、長く人類の福祉を享樂することが出来ると思つたものも多數にあつたらしい。然しソレは早計な無先見な誤解であつた。澤山の解職手當を頂戴して風月を閑地に樂むやうな隠居の資

を得た將官連中は、或は衷心歡喜したかも知れないが、國を憂ふるもの、民族の前途を念ふものは、左様な吞氣千萬な考を持つ譯には行かないのである。なぜなれば、軍備制限、平和増進の精神は、華盛頓における協約の墨痕未だ乾かざるに忽ち一空したからである。左に其證據を提供しよう。

第一、華盛頓における軍備制限協約の精神を裏切つたものは佛蘭西である。尤も佛蘭西は其海軍の比率に関する協約に對して初めから不服であつた。従つて其批准も後れたのであるが、兎も角、一旦協約した事に對して衷心満足しないことを明白にし、軍備制限、非戰好和の精神を裏切つたことは事實である。佛蘭西は四圍の情勢に顧み終に批准の止むを得ざるを觀念して其手續を取つたのであるが、保留批准即ち條件附批准が、ソレまで殆ど佛蘭西の輿論であつたといふことは、之を忘却し去るを許さぬのである。殊に去七月四

日海軍協約批准案に對する外交委員會の報告が下院に提示されたのを見ると、主査委員ゲルニエー氏の「海軍制限條約第四條規定の各調印國が確守すべき主力艦噸數制限（英米兩國は各五十二萬五千噸、佛伊兩國は各十七萬五千噸、日本は三十一萬五千噸）の計數解釋に關する佛國政府の明確なる見解を知りたい」と希望したのに對して、佛國首相ポアンカレ氏が

佛國政府は、條約によつて各締約國に割當てた主力艦及び航空母艦總噸數比率なるものは、締約國各個の海上利害の重要性を表示するものではない、且此比率は明記された艦種以外の艦船に擴張して適用せらるゝことは出来ない、と從來常に考へ、今日も亦爾く考へて居る

と答辯したことが附録せられて居る。即ち佛蘭西の意は、主力艦の比率は不満足ながら約

束期限内之を確守するが、其後においては自由行動に出るかも知れない、のみならず此期限内に雖も、主力艦以外即ち補助艦艇については佛蘭西の必要とする所に應じて建造し、主力艦において失つたところのものを補充するの策に出づるかも知れない、補助艦艇については全く佛蘭西の自由である、佛蘭西は主戰艦について制限を守りさへすればよいのである、其精神の如き必ずしも研究すべきでない、佛蘭西は佛蘭西の見るところによつて佛蘭西の必要に應ずべきである、従つて補助艦艇に關しては大擴張を行ひ他の競争を壓するの策に出でぬとは限らぬ、といふのに外ならない。これは單に主力艦制限の協約を形式的に守るに過ぎないので、軍備制限の精神に背き、非戰好和の意圖を蹂躪するものといはねばならぬ。

主査委員ゲルニエー氏は此首相の答辯に満足したのであらう、之を報告する際

華盛頓會議で作製された諸國主力艦の比率は佛國に取つて不利ではあるが、佛國は輕艦（軽艦）ほゞ多數の大戦闘艦隊を必要としな

いと述べて、輕艦艇大擴張の道あることを暗示し、且海軍條約に存續期間の制限があることを指摘し、暫くの辛抱であるから可決せよといふ意味を以て批准を勸告し、他の提督も亦輕艦艇の重艦船よりも有利なるを説き、若し佛蘭西に必要があらば此條約から脱退する道を發見することが出来るいと述べて居る。此外、此海軍協約に對する不熱誠なる佛國の議論は、滔々皆然りといふべきである。従つて佛國は終に之を批准したとはいふもの、其精神に對して叛旗を掲げて居る、其神聖なる趣旨を蹂躪して居るといふことは明白ではないか（假令佛國の不平は主として英國を假想敵國とする上より來るとするも）

第二、英國も亦華盛頓における海軍々備制限協約の精神を蹂躪したものである。新嘉坡

において海軍根據地の大擴張を行ふことになつたのは、何よりの證據である。新嘉坡を大海軍根據地とすることは、華盛頓條約の制限する所でなく、又其以前からの計畫で、歐洲大戰後、海軍勢力の重點が太平洋に移つたのに對して、英國も亦強大なる海軍を太平洋に配置し、米國及び日本に對抗せしむべし、とのジェリコー大將の提案に胚胎したもので、其目的は（一）米國に對する警戒（二）日本に對する交戦準備（三）日英同盟消滅後の印度に對する鎮壓策にあるのであるが、既に其目的の戦争準備にあるといふ事と、新嘉坡に大海軍根據地を設くるのは香港における其前進根據地たる勢力を強める事になるといふ事とによつて、華盛頓會議で海軍力を制限し且香港の防備を現状維持に止めることにした其精神を蹂躪し、日本に對する脅威を増加するものといはねばならぬ。

否、英國は實に日本を假想敵國として其準備を進めつゝあるもので、新嘉坡大海軍根據

地經營も其一端と見ることが出来る。去七月十一日此問題が英國上院の議に上つた時、前大法官パークンヘッド卿は

今日の世界において國家の力は全く軍備の上のみ存する、従つて外交は全然武力を背景としなければならぬ、外交上の説得力は武力が之に伴うて始めて効力を發する、國家の繁榮は他國の不當なる要求を斥け自國の利益を擴張する手腕の如何に存する

と臆面もなく武力萬能を説き、又前外務大臣グレイ卿は

何人とも新嘉坡の根據地を以て米國に對する戰爭準備と考へるものはなからう。シカシ或は遠い將來の事かも知れないが、日本と戰爭をする可能性のあることは之を認めるであらう……。萬一日英兩國の間に衝突の起る場合ありとすれば、其衝突たるや實に廣汎なるものであるべく、又人種戰爭となるであらうが、其際には米國も英佛國側に起つ

に至るであらう、シカシ新嘉坡に根據地を築くことは華盛頓條約の精神に戻り且他國の海軍擴張を刺戟するであらう、故に政府は出來得る限り徐に工事を進行せしめ、極東の形勢を十分に洞察するまで多額の經費を投ずる計畫を見合すべきである

と流石に名外交家だけに至極尤なる意見を吐き、日英同盟の舊誼をも回顧して日英兩國の衝突なからんことを希望し、若し濠洲、新西蘭を防禦するの必要があるならば、新嘉坡の海軍根據地擴張を見合せて、濠洲、新西蘭の本國に海軍根據地を作るがよい、と説いて居る。けれども、同日下院において海軍大臣アメリー氏が、保守黨議員の質問に對して

植民大臣デヴォンシャー卿は海峽植民地知事からの書面を受取つたが、其書面によると、知事は植民地の立法行政兩會議の非官選議員の同意を得、植民地政府において海軍根據地並に飛行場の敷地を買収し、無條件で英帝國政府に提供すべき旨を申出で、居る。之

に對し海峽植民地知事サー、ローレンス、グイレマード氏は、書面を以て其至大なる好意と愛國心に満ちた申出に對する中央政府の謝意を送つた

と述べた答辯は、非常の喝采を以て迎へられたといふではないか。亦以て新嘉坡根據地計畫が如何に英國に人氣があるか、海軍制限の精神を忠實に守らうなごいふものは、英國にも殆ど之なく、假令あつてもソレは曉天の殘星に過ぎないことを知るであらう。

同じ月の十九日にも此問題が又も下院の討議に上つたが、其時労働黨議員ジー、ピル、ヘー氏は風土の關係から此案に反對し、且

日本と戦争が起るとすれば、人種上の戦争となるが故に、其場合には黒人及び一切の反白色人種は悉く黄色人種なる日本人に加擔するであらう、然らば吾人は海上から同地を防備することが出来ても、陸上側から攻撃を支ふることが出来なくなるであらう

といつて、其無用論を強調し、自由黨議員アール、ソルトン氏も

新嘉坡は海軍根據地として風土及び労働状態からして世界中最も不適當な土地であること反對したが、海軍大臣アメリカ氏は

華盛頓條約中に『香港並に英國が東經百十度以東の太平洋において現に領有し又は將來獲得することあるべき島嶼及屬領』に現状を維持すべきことを規定してゐるのは、防備制限地帯外に新嘉坡を置くことを明白にせんが爲である。英國が香港の海軍根據地使用を阻止したのは自發的に出たものであつて、シカも一千五百哩を離れた地點に海軍根據地を設けんとするのは、毛頭、日本に對する侵略的意圖や、極東を威さうといふが如き意圖に基くものでないことを完全に明白にするためである。新嘉坡は攻勢に出づる根據地としては無益なものであるけれども、防禦の根據地としては理想的のものであらう。吾



々の欲する所は、今後十箇年を経た後に、必要の場合、極東において二三隻の主力艦を維持し、且主力艦隊に相當の他動性を與へんとするにだけである。余は海軍省の豫算一千萬磅が必要の度を超過して居ると考ふる理由を發見することが出来ない、海軍省は此豫算を以て帝國の防備を確保する最も健全にして最も經濟的なる方法と確信して居ると辯明した。而して日英兩國とも制限區域以外では同様の防備工事を現在行つて居るといふことを述べたが、ソレは理窟である、言辭を穩にした詭辯である、日本は本國以内ドコでも華盛頓會議の精神を裏切つて侵略的、好戰的準備を進めるやうなことはして居ない。英國の頼むべからざる既に此くの如くであるが、英國の此態度は更に他の國にまで平和の精神を失はせて、軍備擴張の止むを得ざるを考へさせる程の罪惡を犯して居る。ソレは和蘭をして海軍擴張を行はせるに至つた事である。八月廿四日巴里發の電報によると

ブチー、パリジヤン紙は、新嘉坡における英國海軍據根地設置は和蘭をして其極東艦隊増加を計畫せしむるに至つたと題して、次の議論を掲載した

英國が一千萬磅を投じて新嘉坡に海軍根據地を設置することに決定したのは、既に世の知る所であるが、初め此計畫が發表された時、世人は其目的如何を疑問とした、シカシ今日では一旦有事の際、日本海軍が印度洋、波斯灣に出動することを妨げんとするに在ることが明となつた。華盛頓協定は假令十箇年間南洋における和蘭植民地に保障を與へたとしても、英國の新嘉坡軍港設置は和蘭をして極東において利害相反する強國間の闘争を豫想せしむるに至り、之が爲に和蘭政府は三億ギルダ（二億四千萬圓）の豫算を以て蘭領印度防備のため強力な海軍を建造せざるべからずとして、其計畫を發表するに至つた。此計畫によると、潜水艦七十隻、驅逐艦百八隻を含むこととなる。大藏大臣ゲ

ル氏は此莫大な経費の負擔に反對した、め先月辭職の止むを得ざるに至つたのである。シカシながら和蘭は遂に其計畫を遂行する意氣込であるを觀察される。而して英國の新嘉坡海軍根據地問題が英國議會の討議に上つた時、ダービーシャー氏は其演說中「和蘭の政策は決して、英國に對抗する目的でないことを確信する」と述べ、且「これ寧ろ英、蘭兩國提携を意味するものである」といつたが、若し然りとすれば、コレ明に極東における日本牽制策に加擔するものと見るべきである云々

又七月十九日倫敦發の報によると、ダービーシャー氏(ハタートン、シモンズ會社社長)は此日新嘉坡海軍根據地に反對したもので

本案は和蘭をして其海軍力を増加するため軍艦建造費に一千七百萬磅、蘭領印度の海軍根據地費として八百萬磅の支出計畫を爲すに至らしめた

と述べたのである。ソレは兎に角として、和蘭は華府會議に對して何等の責任もないのであるから、蘭領印度の海軍擴張も自由勝手であるが、若し英國が蘭領印度の對岸、目と鼻との間なる新嘉坡に、新に海軍根據地を築くことをしなかつたならば、和蘭は晏如として平和の精神を以て現状を維持したであらう。然るに英國の新嘉坡海軍根據地新設が、和蘭の不安を惹起した結果、和蘭をして二億五千萬圓の新海軍擴張費を投ずるの覺悟をなさしめたとすれば、英國が華盛頓會議の精神に戻り和蘭までも脅かして國際の平和安寧を危險に導かうとする重大の罪惡を犯して居ることは最も明白である。殊にソレがダービーシャー氏のいふが如く、又ブチー、パリジャン紙の論するが如く、英國自身のみならず、和蘭にまでも、日英戰爭、人種戰爭の大悲惨事を豫想せしめ、シカも蘭英提携を以て日本を壓迫するの意圖を決せしめたものとすれば、英國の日本に對する邪推と嫉妬と敵意とは、和蘭

をも同様の精神状態に誘惑感化し去つたものといふべく、日本及び一般有色民族の蒙る迷惑は勿論、平地に波瀾を湧かし、軍備制限の精神を擴張して平和の永續を期すべき華府會議の趣意を無視し、太平洋方面の安寧と福祉とを打破せんとするものは、英國であるといはねばならぬ。實に世界の平和のために、人類の幸寧のために、遺憾千萬の事である。是等のことから考へれば、英國が華盛頓會議後間もなく大砲の仰角を直したとか、航空艦隊増加の計畫をして居るとか、百時間以内或は七十四時間で印度まで飛ぶ五百萬立法吠の大型飛行船(最初建造のものは、乗客百五十名、郵便物八十噸を搭載し、一時間八十哩の速力を有するもの、漸次建造して都合六隻にて隔週飛行を行ふ筈)建造を新設民間會社に受負はせる(百時間以内の速力を以て毎週飛行すれば三箇年間年々四十萬磅を補助し、隔週なれば二十五萬磅を補助する筈)ことに決定したといふが如きは、何等不思議の事はない。

但し日本の當局及び國民は之を何と見るであらうか、同盟の舊誼を有する英國はドコまでも信賴すべきものとして、何等對應の計をも講ぜず安心して居るであらうか。

シカシこれは英國の大過失である、吾人は其本然の善性に立返り、人道の上に平和を築くことが、英帝國の將來をして益々光輝と隆盛とあらしむるものなる事を悟り來らんことを切望する。若し英國にして、人種的差別觀念を抛ち、眞に人道の見地に立つて、平等の主義を確持し、開放政策を執つたならば、日本を對象として疑心に暗鬼を畫く必要もなければ、其屬領なる印度に對して叛亂を警戒するが如き必要も毛頭ないのである、印度も平穩、濠洲も新西蘭も共に安全、太平洋の波は萬古立ち騒ぐべき理由を失ふのであるから、自ら多大の海軍費を抛ち、併せて他國をして自衛的競争心を起さしめ、共に無用の浪費を投じて共に窮乏を加へ、國民の安寧幸福の資を減ずるが如き愚をなすには及ばぬのである。

けれども、英國が優勝民族觀念と武力的帝國主義とを棄てず、ドコまでも不法非道なる差別と壓迫とを以て、有色民族に臨み、好んで事を起さんとするものならば、寧ろ平和の敵、人道の賊ともいふべきである。シカも日本人中此新嘉坡問題に對して憂を懷くもの、抗議を提出するもの、寥々として殆ど聞く所なきは、遺憾至極である。亦これ大勢順應主義の餘勢の然らしむる所であらうか。

第三は、華府會議の主人公であつた米國自ら其當時の精神を抛ち事實の上において軍備競争に打勝たんとするの風ある事である。論より證據、幾多の事實が之を説明して居る。

### 航 空 隊 擴 張

これについては大正十年十月前米國海軍司令官ターンバル氏が、公にした『比律賓飛行機防禦論』の内容の恐るべき事と、米國がウッド將軍を比島總督として比島の獨立運動を

抑へ永く之を確持するの意志を明にした事を先づ腦中に刻して左の諸報に對することを要する(比律賓飛行機防禦論の大意は拙著『華盛頓における日本の敗戦』の餘論『日米將來の關係如何』の内に紹介して置いたから参照せられたい)

#### 七月廿五日紐育發電報

米國陸軍航空隊長バトリック將軍は、現會計年度の事實上二重支出となるのであるが、怖るべき佛英兩國の航空隊に對する最小限度の航空軍組織費として二千五百萬弗の支出を次の議會に要求する案を承認した(著者曰く米國は英國や佛國と戦ふべき可能性が少い、恐らく敵は本能寺に在るであらう)

#### 八月二日華盛頓發電報

海軍省における軍事専門家は巡洋艦型の飛行機母艦建造計畫を考慮中である、シカシ其艦體は一萬噸以内で速力大なる偵察艦と協同動作をなし得るに十分なる速力を有せしめ、二十機乃至ソレ以上の小型偵察用及び戰鬥用の飛行機を運

搬し得るものである、海軍當局は此型の軍艦建造は五箇國海軍條約に何等牴觸するものでないといつて居る、目下各三萬三千噸の戦闘巡洋艦サラトカとレキシントン二隻を飛行機母艦に改造中である、當局は海軍條約が米國に四乃至五隻の一萬五千噸前後の軍艦を同様の目的のために建造することを許容して居るといつて居る云々

八月二十日華盛頓發電報 陸軍航空隊ではオハイオ州デートンのライトレールにおいてバーリング、ボンバーと稱する世界で最も強力な戦闘用航空機を就役せしむる事となつた、此の航空機は六個のモーターを有し、五十封度の爆弾を運び、二千ガロンのガソリンと百八十一ガロンの石油とを積載し、一時間九十哩乃至百哩の速力で、十二時間の航續力を有するものである、全部の必要物品を積載する時は重量は二十一噸となり、其翼は長百二十呎、高二十八呎であるが、成績良好と決定すれば七門の大砲を載せる筈である。

### 陸 軍 擴 張

八月七日華盛頓發電報 米國陸軍卿ウィークス氏は、陸軍省は議會に對し本省豫算を本年度に比し三百五十萬弗増加するやう要求するであらうと發表した、右増額中には巴奈馬運河地帯防備のため百八十萬弗の支出要求を含み、陸軍兵員を十二萬五千とすることを要求するであらうと(著者曰く巴奈馬地帯防備に注目せよ)

### 太平洋岸根據地大擴張

八月十三日華盛頓發電報 海軍省は、海軍の策戦上太平洋岸防備の必要を認め、海軍將官會議の勸告を容れて、太平洋沿岸海軍根據地の擴張案を承認した。同案はホノルル、サン、フランシスコ、ビニューゼット、サウンド、サンヂエーゴ、及びバナマ運河地帯内

の各海軍根據地を擴張せんとするもので、之に要する經費は一億一千百萬弗である。而して右金額は向ふ二十箇年間に繼續支出する豫定で、第一に布哇のパール、ハーヴァーの計畫から着手する筈である。太平洋岸に要する經費は全海軍根據地豫算の六割七分を占めて居る(著者曰く米國の太平洋方面に海軍の全力を集中し且之を強大にするの意を見るべきである、其意圖知るべきのみ)

八月廿五日紐育發電報

米國海軍當局は日本の諸新聞が華盛頓條約の精神に違反する

と非難して居るに怯まず、布哇のパール、ハーヴァーを太平洋のヂブラルタルとみなさんこの計畫を進めて居る、比律賓。グアム。サモアに關する經費をも要求したが、コレは華盛頓條約範圍内での武器裝備の取替及び普通の修理費に過ぎないとの事である。パール、ハーヴァーの防備は大したもので、ソレのみでも四五千萬弗に上ると見込まれて居る

が、ソレも全計畫の端緒に過ぎぬであらう。海軍當局は戰略上の必要があり、完全且難攻不落のパール、ハーヴァーの根據地を擴張し、之を太平洋海岸及び加奈陀方面の諸根據地とを聯絡する整然たる系統を樹てねばならぬといつて居るから、シヤトル。サンフランシスコ。ロスアンゼルス。サンヂエーゴ及加奈陀の一線を背後に控へた布哇諸島は、將來如何なる海軍國が聯合して米國の要部を衝かんとする場合でも、確實なる防禦地となるであらう(著者曰く、布哇を以て單に防禦地とするに止らず、グアム。サモア。比律賓を前進根據地とする攻撃的策源地とするの可能なるを忘れてはならない)

海軍擴張

八月廿日華盛頓發電報

豫算局長は來年度海軍豫算に對して七千萬弗即ち約二割の削

減を要求したが、海軍當局は斯く豫算を削減されては華盛頓條約に依つて決定された米

國の海軍力を實際上維持することが不可能であり且既に將官會議に提議せられデンビー海軍卿の賛成を得た偵察巡洋艦八隻、潜水艦六隻及び河用砲艦四隻の建造計畫を全然拋棄せねばならぬ事になると聲明した。海軍側の豫算原案は大體前年度豫算と同額であるが、前年度の豫算は原案の三億五千百萬弗に對し議會の協賛を得たのは三億二千五百萬弗であつた。而して前年度においては二隻の戰艦と五隻の巡洋艦が竣工就役したのであるが、來年度は海兵五千人の増員を行ふために豫算増額の必要を生じたのである。實に陸、海、空、水、孰れの軍備を見ても、擴張又擴張ではないか。米國が華盛頓會議の主宰者にして既に此くの如き態度を執る、自ら其會議の精神を抛棄し蹂躪するものでなくて何であらう。

佛、英、米の三國は勿論、和蘭も亦然り、華盛頓會議の精神は生存の餘地なしといふべきである。況んや、之が發揮せられ増進せられやうと思ふが如きは、夢想病者と雖も亦爲し難かるべき所である。日本の當局及び國民は之を見て何と思ふか。

### (三) 日本左右の強壓

#### 日本官民の無思慮と油斷

英米の兩國は、東西の兩半球に對立し、世界を通じて互に其覇を爭ふ無比の富強大國で、時に抗爭の激烈を極め、國交を危うするやうな場合がないでもないが、概して言へば、其親善に傾くべき可能性に富んで居る事と、兩者必要の場合、提携協賛すべき程度とは、其同種同血の同胞國たる點から見ても、又兩虎相闘へば其勢共に生きざることを知つて居る利害關係の點から見ても、日英の親善協戮、日米の親善協戮に比して、共に遙に多大なるも

の推斷せねばならぬ。ウエルサイユ講和會議の後、幾分の阻隔を來したやうであるけれども、ソレは單に英米の間ばかりではなく、各國共に分離孤立の状態に陥たつもので、シカも英米の如きは、英國が華盛頓會議の招待に應じ、之を機會として米國の切望して居た日英同盟解約の策に出で、且米國の提案たる海軍比率にも溫和しく承認を與へてからは、寧ろ其親善を回復した形がある。即ちソレだけ日本の孤立をして深大ならしめたのである。

然るに、英國の海軍協約を見ると弊履の如く、米國の亦これ愛せざるを襤褸の如く、而して英國の新嘉坡を根據として太平洋に臨まんとする意圖計畫彼が如く、米國の西部海岸一帯の警備を嚴にし布哇を根據として太平洋を制せんとする亦此くの如くである。彼等は互に太平洋における邪魔物を一掃せんとする決心覺悟の外に何物を懷抱して居るであらうか。而して此兩大勢力の中間に處して太平洋に盤踞する異人種、黃民族の雄は、實に我

が日本である。彼等は公然日本を指して邪魔物とはいはず、勿論これを一掃し去らうなどとは間違つてもいはないけれども、彼等の白色主義、有色民族排斥、もしくは壓抑の政策からいへば、彼等の意圖計畫が、日本を以て假想敵國とするに於ては、火を賭るよりも明かであらう。憐むべし、貧小日本は、一の誠意、一の公正なる平和欲求心の、彼等に諒せられずして、世界無比の兩富強大國のために右より左より交々壓迫せられて息苦しくなりつゝ、あることを感ぜざるを得ないのである。英國の對印度、對支那の政策、米國の對比律賓、對支那の態度は、更に之を傍證するものである。

若し日本の政府及び國民にして、今少し賢明であつたならば、而して油斷せず成すべき事を成すべき時に成して置いたならば、左右の壓迫を支へる力は今日以上遙に強かつたであらうのに、今となつては死兒の齡を算ふるの愚に類するのである。其成すべき時とい



ふのは何時であつたかといふに、歐洲大戰後今日までの事である。歐洲大戰後、世界の強國は悉く疲弊し、流石の英國も自國の回復と歐洲の協調とに没頭し、殆ど他を顧みるの餘裕なく、今日と雖も尙其趣を存して居るのであるから、諸他の國は推して知るべきのみ、只米國と日本とが(比較にはならないが)餘裕綽々として大に成すべき力を持つて居たのに過ぎない。諺に「勝つて胃の緒を締める」といふことがあるが、大に勝ち誇つた米國は又大に此諺の通りに實行したが爲に、この點からも終に世界の覇者となつたのであるが、日本はヤツミ一の小成金となつたか爲に氣が驕り、従つて大に胃の緒を弛めソレがダラリと地に曳く所を自己の脚にからみつけて一蹶頓倒し、シタ、カ鼻血を出して腦貧血に陥るといふ醜態を演出したではないか。

日本が戦後各國の疲懣せる間に乘じて優越の地歩を築いたものは何であるか。一言にし

て約すれば、政府の無方針に近い放漫政策、國民のダダツ兒的痴態のみではないか。官紀の頹廢、風俗の墮落、驕慢放肆の個人主義、奢侈豪華の成金氣風、物價の騰貴、階級的闘争、勞資抗争と國民的不一致、性慾研究と戀愛至上主義、軍閥攻撃に名を假りて國防を咀ふに至れる非戰享樂主義、人類愛の名の下に君國を無視せんとする世界人的態度、名と金とに殉じて節義公道を意に介せざる物慾主義、是等の横行濶歩、全盛を極めた外に、何物があつたであらうか。拙著「孤立的日本の光榮」は、是等の情勢によつて到底孤立の光榮を全うし能はざること憂ふるの餘り、遲蒔きながら其方向轉回のために、日本の世界における危険なる位置を指示し、對外對内の準備三十餘項を叙説したのであつたが、之に共鳴したものの、比較的多かつたに拘らず、事實においては、國家的にも社會的にも、今日まで殆ど何等の見るものがなかつた。

政友會内閣當時の失政は、言はずもがなである（纔に教育施設上や、取るべきものはあつたが）。加藤内閣に至つても、一意華盛頓會議の協定を忠實に施行するといふ外には、何もものもなかつた。シカも華盛頓會議の精神は、前章に例證した通り、其協約の墨痕未だ乾かざるに盟約諸列強の蹂躪する所となり、日本の忠實施行は要するに尾生抱柱の信に過ぎないことを表明したに止まる。外に對しては、露國との國交回復にも失敗し、支那からは輕侮的排斥を受け、殆ど手を下すべき所を發見し得なかつたといふ窮地に陥つたではないか。而して内に對しては、普通選舉法の制定をも見ず、従つて華族制度、貴族院令の改正をも見るに至らず、風紀の振肅、物價の安定、勞資の協調、産業の發達をも來す能はず、徒に人心の險惡と國民相互の不一致とを増進したに過ぎなかつたではないか。而して加藤内閣の死活の論を握つて居たのは、絶對多數を誇る政友會であつたのである。政友會が寺内

内閣以來三代を通じて表裏に政局を支配して居た責任も亦重しといふべきである。

此くの如くにして、太平樂を歌ひ、散漫放肆の内に成すべき事を成さず、徒に國民の不統一を助長し鬪鬪禦侮の精神を失墜し、夢の如くに經過せる間に長江大河の其源深く其流遠く、如何なる干魃にも水の涸れざるが如く、世界に跨つて其領土を有し限りなきの富源を有せる英國の如きは、一時創痍のために弱つたけれども、忽ちにして回復し來り、今や新嘉坡を根據として太平洋に雄飛し、米國と共に腹背から日本を壓搾するの計畫に取りかゝる程の力を示し來つたのである。日本官民の無思慮と油斷とが、自ら修むべきを修めずして放恣機を失し、尾生抱柱の戀愛至上主義に固着し、俄の洪水に押し流されて溺死せんとする境遇に立至れるを悲むが如きは、自ら憫笑するに餘あるべき事ではあるまいか。日本は如何にして此左右の大強壓に堪へんとするか。

### (四)泣面に蜂—大震災大火災

天譴も亦甚だしきに過ぐ

國際の形勢、朝を以て夕をトすべからず、人心の險夷、東を以て西を測る能はず、油斷の大敵たる、萬古の鐵案たるに拘らず、歐米諸國が人種戰爭を豫想して戰鬥準備に汲々たるの時、小成小康に安んじ、又此好夢の永續を望むが爲に、幾多の休戰的妥協、交綏的協定を目して、人類愛の擴張が平和永續を確保する象徴なりと誤認し、逸樂の機此時にありとして、耽溺放肆これ事とするものが、我國民中に多かつたとすれば、天の日本を棄てざる以上、斷乎として大譴責を加ふることは之あるべきの理である。乃ち今回の大震災、大火災の如きは、此譴責の大鐵拳と思へば思はれぬでもない。シカシながら、此大譴責は日本

全國官民の受くべきもので、今回の罹災民のみの受くべきものではない、従つて天心が、至公至正至大にして一點の私なしとすれば、此變災は餘りに偏頗不公平である、故に此變災を以て天譴なりとするが如きは、痴愚の迷信に過ぎないことは無論の事であるが、シカシ日本の全國官民は之を天譴なりとも思ひ、大反省をなすの資料とするがよい。

抑も此大變災によつて、東京、横濱、其他關東各地の蒙つた損害は、幾何であらうか、日本に取つては實に絶大の打撃である。既に二人の巨漢の爲に左右から抱きすくめられ將に息の根の止らんとして如何にせば此急を脱し得べきかと藻掻ける時に、何物の怪物にか、背後から一大棍棒を以てシタ、カ腦天に打込まれ聊か腦骨の碎けた、めに卒倒して、人事不省に陥つたやうなものであるから、譬へば『泣き面に蜂』といふ次第であるが、其痛手はなかく、蜂に螫された所の談ではないのである。従つて此打撃の中心となつた罹災地の慘

狀に對しては、痛悼の言葉もなく、切なる同情も表示すべき術のないことを遺憾とする次第であるが、同時に此打撃を日本の全體より診察する事を忘れてはならない。

既に十餘萬の死者を出し、三十餘萬の傷者を數へるといふ事は、日本に取つて重大なる損害である。又物質的損害が何人かの推算の如く果して五十億に止まるかは疑問である、中には復得べからざる貴重のものもあるから價を以て計ることが出来ないといふのも、道理ある事である。亦以て其損害の程度の如何に深大なるかを考ふべきであらう。

無形の損害からいへば、教育、文化の停頓、不安、不秩序、窮困等から罹災地、罹災民以外一般に及ぼす悪影響など、數へることの出来ないものがあるのは勿論であるが、之を物質的にいへば、租税の収入も大に減少（或は直接國税のみにて一億五千萬圓と推算す）するであらう、鐵道、電信、電話、郵便の収入も減少するであらう、諸種の製産も減ずるで

あらう、輸出は減退して輸入は大増進を示すであらう、國家と共に災害にかゝつた市も、縣も、必要の事業を進むる資源を失ふであらう、否、復興の資にすら窮するであらう、多くもあらぬ在外資金も自然消滅すべく、國庫の豫備金は勿論、剩餘金も益金も亦忽ち一空するであらう、従つて國家も亦災害に對する善後、復舊の資源に事を缺くやうにもなるであらう、而して非罹災者たる一般國民も救急のために應分の資を投じて居る以上、國家も國民も共に相率ゐて貧窮に向ふのであるから、善後の經營は大困難に會するものと覺悟せねばならぬ。内既に此くの如く有形無形の損害を受くる絶大にして、善後の經營意の如くならずとすれば、對外的活動の如きは毫厘の望みを囁することも出来ぬであらう。たゞ總ての事業の中止と、緊縮と、節約と、繰り延べと整理とによつて徐々に回復するの外はないであらう。

然るに、華盛頓協約の軍備制限は十年間の効力を有すべき筈であるに拘らず、太平洋に於ける英米の挾撃的壓迫計畫は今日既に顯然として進められつゝあるのである。この期限の盡きたる曉の太平洋の形勢は、果して憂ふべきものがないであらうか、更に恐るべき状態となるではなからうか。而して日本は此十年間に之に對應し得るの精神的及物質的準備を整へ得るであらうか、震災善後、帝都復興の事業は、全く之を牽制し去ることはないであらうか。震災前の状態の儘なる十年を以てするも、心細き限りであつたのに、突如として此災禍の大打撃を喰つたのであるから、罹災前の國民心理から來るやうな不統一、不眞面目、非國家的不準備が相變らず國家、社會の實際に反映するものとすれば、只絶望といふの外はないのである。震火災の大打撃たるや、單に「泣面に蜂」のみでないことは、官民一般に深く感銘し、早く此境遇を脱するの計を講ぜねばならぬ。

### (五) 喜ぶべく憂ふべく恐るべき外國の同情

#### 自奮自立と乞丐的墮落との岐路

今こゝに「喜ぶべし」といふのは、外國の同情に對する日本官民の感謝の念である。「憂ふべく恐るべし」といふのは、日本官民の此外國の同情について如何なる考を持つか萬一の誤解はないかといふ憂悞である。

東京、横濱、其他關東各地の蒙つた大災害の報道一たび傳はるや、米國は率先して東洋艦隊の全部を日本救援のために提供すべしと申出で、同時に支那から、比律賓から、衣、食及び藥物、醫療の器具までも積み込んで日本に向つて急航させ、本國においては新大統領クーリツヂ氏は太平洋航路の船舶も救急輸送に就けし命じ、又氏自ら義捐金募集の爲に

奮起し、之が爲に殆んど三週間に於て二千萬圓といふ巨額の義金が醸出せられ、米國赤十字社は五百萬圓まで支出するの計畫を以て日本救濟の急に赴くことを決し、藥物、衣服、醫療の器具機械は勿論、無數の病床までも之に加へ、更に醫員、看護婦幾十名といふ多數を附し、一切の準備を整へて即座に日本に差向け、現に是等の人々は其職務に鞅掌して居るし、比律賓でも二百萬圓募集の計畫を以て日本の爲に盡して居るのである。又英國においても直に東洋艦隊の艦船を以て米國の如く日本の救急用に提供すべきことを申出で、本國においては倫敦市長自ら義捐金募集を企て、廿日過には二百萬圓を超過するに至つたと報ぜられたが、更に救世軍は三十萬圓を義捐するの計畫を進め、濠洲からは既に去十六日を以て百四十萬圓の救濟品を積込んだ船がシドニーから日本に向つたと報ぜられ、南阿からは玉蜀黍五千袋を、香港からは二十五萬弗を贈られるといふし、加奈陀からも、印度から

も、少なからぬ義捐があるとの事である。而して佛蘭西も亦百二十二萬八千法を、和蘭からも十萬圓を贈らるゝといふし、波蘭からすらも物品の寄贈があるといふ事であるし、支那からも亦食糧、物資、義捐金等少なからぬ寄贈があり、伊太利からも百萬リラの義捐があるといふし、勞農露西亞人すらも敢て此義舉に後れまいとし、其他、金品の寄贈、追悼會の催し等、各國民各種の方法を以て日本に同情するといふ有様で、一々こゝに記載するに堪へぬ程である、即ち世界の同情翁然として日本に集まるといふべく、日本は何というて是等の同情に對する謝意を表すべきか、感激感泣、其いふべき言葉のないのに苦んで居るのである。此くの如く世界の同情を集めた日本は、何たる幸福の國であらうか、哀痛の裡にも亦自ら慰め得べく、否、胸中に溢るゝ喜びの意を掩ふ所なく列國義人の前に表白し、其殷懃熱切なる同情の決して忽諾に附せられ其効果の苟も殺滅せらるゝことなきを誓つて、

切實なる謝意を表し且之を永久に銘すべきである。殊に米國や、英國や、其他に、日本の信用を保障するもの續々出で、復舊用品の注文には幾らでも應じよう、若し外債を起すの必要があらば個人や會社などに交渉する面倒を避けて、直に政府筋に申出るがよい、低利を以て何程でも日本の所要額を充たすであらうなごいふ米國人もある、又日本の復興力の盛なる、必ずや咄嗟の間に理想的大都市を東京に現出して、世界を驚かすであらうなごい、信用と激勵とを以て日本に對する英國人もあるごいふに至つては、吾々日本人は其好意と其親切とに對して、喜ばしさの餘り感涙の滂沱たるを禁じ得ないのである。

然しながら、若し日本人の内、其の官民孰れたるを問はず、此くの如く外國の同情の熱切般盛なるは、近來特に順應的抑損を以て外交方針とした結果である、軍閥排斥を行ひ非戰好和の氣風を振起した餘慶である、進取的伸の意圖を抛ち、自由、民主を主義とする内部

整理に傾き諸列國の安心を買ひ得た爲である、従つて此際外國及び外人の好意に信頼して帝都復興に全力を傾注し、大に外債を利用して一舉に平素の理想を實現し、一氣に新裝の帝都を建設すべし、國際的日本の位置は安固である、眞に東京、横濱、其他の立直しを完全にする好機會である、列國は斷じて日本を苦めずして大に其力を假すであらう、ごいふが如きものあらば、ソレは大謬見、大早計、重大なる過誤を敢てし、少數者の功名手柄に急なる野心の爲に、一部分たる市、港の新裝のために、日本の全國民を犠牲とし、日本の國家を一層危地に投ずるものと斷ぜざるを得ない、實に大に戒むべきことである。吾人の憂ふべく恐るべしとするのは、徒に外國の好意に狎れて一時の爲に千歳の長計を誤らんとする、此日本官民の無思慮といふ一點に存するのである。この憂悞は恐らく杞人天の落つるを憂ふるの類ではあるまい。

事に會して迷ふは人間の習である、重大なる突發的事變に逢うて冷靜を失ひ狼狽措を失するは、或は卓越の士と雖も時に免れざる處である、況んや翻々たる凡庸政治家をやである。凡そ悚惕惻隱の心は何人かなからん、變災に襲はれ悲惨の連命に弄せらるゝものあるを見て其急に應じ其危きを救ひ其苦みを除かんとするは、人類通有の性情、即ち天賦の本能である。國家の異同や人種民族の差別などによつて變ずることのない本能の發露である。況んや文明的教養あるものにおいてをやである。従つて此際においては之を救ひ之を慰むるために思ひ切つたる行動に出る上に、無上の快感を覺わしむる程のお世辭をも振蕩くのを常とする、殊に國交や社交に慣れて辭令に巧なるものにおいて然りとす。又従つて窮迫の場合に他人の甘言に乗せられ親切に絆されて終に自ら誤りの端を啓くを思はぬものも往々あるのである。乃ち斯る場合においては、國家の重きに任ずるものは勿論、國民も亦

共に冷靜に事に處し、徒に他人の好意、外國の親切にのみ信賴することの可否如何を深く考へなければならぬ。

義捐とか、寄附とか、救濟とかいふ事は、國と人とを問はず、其良心の命するまゝに爲すべき事で、日本の例を顧みれば、桑港の震災とか、支那の飢饉とか、チエツク、スロバツクの露國脱出とか、獨逸の窮厄とか、其他種々の場合において、人種や國民の異同を問はず、應分の助力を致して居るのである。日本の災害に對して、各國、各民族が、同情と救恤とを寄せ來る、亦同一理由で、畢竟、人類通有性の美しき發露である。此同情や、救恤や、罹災國民に取つては感泣感謝の外はないのであるが、必ずしも異とするには足らぬ。盜賊と雖も、甲に取つて乙に與へ、豪富を掠めて貧窮を恤み、義賊の名を擅にするものも古今其例に富むではないか。況んや、文明國、文明國民においてをやである。或は惡意は



なくとも、他國の手前、他國民との比較的の體面上、お義理として義舉の形式を取るに過ぎぬものもあるかも知れないのである。

故に義捐金品の多少や、救濟的助力の大小を以てして、其國、其國民の好意の深淺を測定することの不可なりと同時に、一時の感激を以て無條件の信頼を致すが如きは、最も慎むべきことである。所謂「富者の萬燈、貧者の一燈」で、富裕強大、凡てのもの、備つて尙且餘り多き國や國民やは、之に比例して義舉其もの、規模を大きくすることが出来、貧弱にしてシカも國事多端なるものにおいては、如何に燃ゆるが如き同情の念あるも、事は志に伴はず、辛うじて其精神を表明し、其一片を事實に貢獻するの外なしといふのは、當然の事である。乃ち義捐金の多少、救恤的助力の大小を以て、好意の深淺を卜すべからずといふ所以で、若し列國人中正義博愛の仁人のみならず、腹黒き政治家ありすれば、此

機會において日本に恩を賣り併せて多額の金を貸しつけ、傍目もふらず帝都其他の復興事業に没頭せしめ、義理と情にからんで日本の外交上の發言權を抹殺し、同時に日本をして借金國たらしめ、日本をして外國の情に生きる國際的乞巧の境遇に陥らしめ、獨り自ら世界に横行濶歩して榮華と勢力とを擅にせんとする、惡辣なる陰謀、他人の窮厄に乗じお爲ごかしに陥擠して石を投ぜんとする、所謂送り狼を學ばんとするものがないとは限らないのである。乃ち國家の重きに任ずるものは勿論一般國民は、此大災禍の裡に處して或は常軌を逸せんとするの際、特に冷靜に返つて深慮せねばならぬではないか。

若し米國の國民、國家が、又若し英帝國及び其國民が、今回の義舉に示された如く、眞に日本國及び日本國民に對して渝らざる同情と信用と親切とを有するならば、米國なり加奈陀なり濠洲なりは、其門戸を開いて罹災失職の日本人を移住せしむる位の度量を示すべ

きである。然るに、彼等は、人種差別主義を堅持して門戸を閉鎖し、既に永住せるもの、職業すら奪ひて之を迫出せんとする方針を改めず、米國の如きは米國の爲に従軍せる日本人にすら市民権を與へず、シカも英國と共に各方面に軍備を修め、華盛頓會議の精神をすら蹂躪して、太平洋の兩方面から日本を壓迫しつゝ、あるではないか。米國大統領クローツ氏は、今回の義捐金募集について大に努力せられ、吾人をして感謝の辭なきに苦ましまして居るのであるが、其成績の良好なるに對して致せる演説の内に「米國民は漸く醒めて巨萬の富も強大なる陸海軍も畢竟眞に世界の統御者でないことを悟るに至つた」といふことを言つて居る、米國民は果して覺醒して此に至つたのであらうか、吾人は米國の陸海空軍の施設と太平洋政策とに照して矛盾の感なきを得ない。今絶大の好意を寄せらるゝに對して、忌憚なき評論を試みるは、甚だしく禮を失する次第であるが、吾人は米國從來の太平洋政策

を憂ふるの餘り、新大統領の演説の趣旨の如くならんことを切望するが爲に、敢て此に言及したのである、今後永く此方針に従つて邁進せられんことを祈願する。同時に英國に向つても、亦人種戦争を豫想して之に對する準備計畫を建つるが如き事を抛棄せられんことを懇望する。

支那官民の日本の災害に對する同情も感謝の辭なき次第であるが、此機會に乗じて關稅増加を計畫したるが如きは、誠に惜むべき事で、隣國の災厄を政略に利用せんとした譏を免れない、支那の國情にも同情すべく従つて敢て深く咎むべきでないが、此くの如きは君子國の爲すべからざる所であらう。又日本の災厄に同情して日貨排斥を見合すべきの通電を發したるも感謝すべき所であるが、吳佩孚將軍の熱圏内である漢口において、外交後援會なるものが、去廿四日（？）日本品を買入れたといつて海產物商陳某を捕縛し、硝酸を以

て面部に『賣國奴』の印を押し、旗を押し樹て、市中を引廻したといふが如き、残酷極まる事件を演出し、シカも各新聞これを稱讚して居るといふに至つては、實に悲しむべき事ではないか。殊に涪州問題、宜陽丸射撃抑留殺傷事件が、我が災厄に苦める間に突發したるに至つては、吾人實に支那軍民の日本に對する好意を疑はざるを得ない、これ實に臨城における土匪暴行事件以上の大問題である。而して事、吳佩孚將軍の部下に關して起つたものである以上、吳將軍自ら進んで之を解決し、以て將軍の日本に對する好意と同情とを完うすべきではあるまいか。又東支鐵道沿線三岔河においても、去廿一日支那兵三十名武裝のまゝ、同地駐在の日本人高橋某の家宅に侵入し、高手小手に縛めて搜索を行ひ、白川某今田某の宅をも襲つて同様の暴舉に出で、金品を掠奪して去つたといふが如き事件が起つた。恐らくコレは張作霖將軍勢圏内の軍隊であらうが、此くの如きは、日本に好意を寄せ、

日本の災厄に同情する、支那大官の管下においてあるまじきこと、思ふ。

此くの如く觀察し來れば、一意外國の好意に信賴し、一時の感激のために永遠の思慮を缺くが如きは、最も戒慎すべき事であらう。日本の國際的位置は、災厄に對する一時的同情を以て永く其安寧を期待し得るが如き安固のものではない、否、益不振不安の方向を取りつゝあるのである。

### (六) 國際的乞丐より亡國へ

好餌を慕うて罌に入るもの

國際的乞丐については聊か前章にも説いたが、更に之を闡明するの必要がある、又本章には併せて國際的乞丐は亡國の端であることを説かうと思ふ。

乞丐といふものは其原由の何たるを問はず貧困の爲に自給自活することが出来ず、西や東のお旦那様、お神様の手の内に縋り、辛うじて其生命を維ぐもの、即ち他人の惠澤によつて纔に生きるものであることは申すまでもない。中には乞丐によつて生活の資を蓄積しながら、尙其卑劣な仕業を休めることの出来ないもの、若くは屈強の身を以て働かずに三日間の味を永遠にしようとする不所存のものもあるが、要するに乞丐は乞丐である、人中の最賤民、全く人格を缺くものである。

近頃「中國貧民考」なるものを書いた人がある。之を讀んで見ると、乞丐の事が詳しく書いてあり、十二三種について一々説明して居るが、其内の「遊丐」即ち江湖丐といふものは、一定の季節を以て行乞するもので、大きな都會へは一年に一二回現れる、其旅行は無賃乗船によるもの多く、大都會に着けば乞丐宿に荷物を卸して其來着を土地の乞丐頭

に知らせる、頭は定例によつて幾何かの金を與へると、彼等は二三日逗留して去る、彼等は大概一二簡単な藝を持つて居るから、時に富豪の家などから一度に數十文を得ることもある、従つて一文もらひの乞丐よりは収入が多く、従つて平生の起居飲食も普通の乞丐よりは贅澤である、蘇州などでは此乞丐に與へる金は年二回一人平均十元乃至十四元といふことであるが、ソレは頭に分擔に屬するもので、ソレを與へないと其地方を騷擾さすから之を豫防するためである、といふ事である。頗る興味ある風習と思ふ。

ソレで吾人は考へた、既に『江湖丐』ありとすれば、斷じて『國際的乞丐』といふものが出現せぬとは限らぬ。而して泣き面に蜂的の今日の日本が、萬一これに似たやうなことがあつては大變だと考へた。乃ち本著を草するに方つて取つて以て自他共に戒めんとした所以であるが、譬の不祥なるが爲に言を棄てざらんことを望むのである。

若し國家にして國家の名を有しながら、其實を有せず、即ち内においては統一を保つ能はず、外においては國際的問題に發言の權威を示す能はず、財政も窮迫して内債外債に首が廻らず、シカも種々の不始末を演出して他國に迷惑をかけるが爲に、其懲罰として、若くは其代償として、國家の主權を削られ、諸種の利權を強奪せられ、殆ど諸外國の監督の下に立つも、シカも一朝怒を發すれば如何なる暴動を起し世界の平和を紊すに至るかも知れないといふので、諸列強も之を亡ぼすに至らず、或は甘言を以て之を利用し、或は金品を與へて之を懐柔し、時には其借款の要求にも應ずるので、此國家は尙幾分國家の名を存し、諸外國のお情の下にヤツと其生命を維持することが出来るに止まるゝすれば、これは正しく江湖丐同様の國際的乞丐ではあるまいか。

此國際的乞丐の状態に陥るには、種々の原因があるが、某國或は某々國から、お前の國

民は偉い國民である、如何なる變災に逢つても驚かない、着々として之を回復するの能力がある、お前の國の信用は鞏固である、變災に對しては出来るだけの義捐はするが、ソノ位では焼石に水であらう、其能力を發揮して回復のみならず理想的復興をするには、此機會を利用し、其信用を活用して、大に外債を起し、ドシ／＼必要な材料を輸入る、がよい、又専門の技術家を雇ふもよい、お前の國の必要とするだけの國債にはナンボでも應じよう、機會は再び來らず、其後頭は禿して居るといふから、今日の機會を捉へて理想的大復興をやらなければ、到底文明國として見るべき帝都は出來ぬであらう、宜しく銳意して大にやるべし、世界は益平和である、此事業に専心して内部の整備を行ふには絶好の時機である、斷じて躊躇すべからずと囁くものゝあつた時、御説御尤、これ余が平生の抱負である、宿昔の志を遂げ、帝國の首都をして永遠に光輝あらしむるの事業を起すは正に今

日にあり、卑見正に貴説に投合す、好意多謝、直に貴勸告の通りにすべしといつて、大なる外債を起すものがあつたとするならば如何、シカも國家の急務とする所は單に帝都復興の一事に止らずして他にも多くあり、従つて壯大宏麗なる帝都の現出する時、國力は疲弊し盡し、シカも他の急務は閑却せられて、内は國民の怨を買ひ、外は強國に頭が上らず、僅に列國の恩惠の下に國家的生存を続けなければならぬといふ事になるのも其一ツである。即ち好餌の香に欺かれて狐の智者も畏にかゝると同様、外人の甘言に釣られ國家を以て國際的乞丐の境遇に陥るゝものではあるまいか。

かの埃及は、今や形式上英國の保護國たる位置を脱して、獨立國といふ事になつたが、マダ／＼英國の羈束を蒙る點が甚だ多い。シカ亡國の境遇から獨立國になつたのであるから、其回復力は偉きべきである。此埃及の如きも、一時は國際的乞丐の位置に沈淪し

終に主權を喪つて亡國の最期を遂げ、歐洲大戰を経て再び浮び上つたもので、其國際的乞丐になつた所以のものは、主として歷代國王の奢侈、内外の戦争、文明的新事業濫設などの爲に、收斂誅求と無制限の浪費とを重ね、外債又外債と非常な借金を歐洲諸國に行つた結果である。シカも此に至つた所以のものは、國王の不心得な虚榮と、亂暴な専制とに基づくものも多いが、英佛其他の外國人の煽動教唆に操縦せられ、勢力争の具に利用せられたのに歸する、といつても善い位である。一言にして盡せば、財政的亡國で、外力に依頼した國際的乞丐の成れの果といふべきである。歐洲戦前の土耳其も亦之と同様であつたが、埃及のやうに亡國とならなかつたゞけソレだけ、埃及以上に立直りつゝ、あるのは慶賀すべき事である。其他これに類する國は亞細亞に澤山ある。日本も亞細亞の一國であるから、斯る不祥の例を引いて戒めるといふ譯ではなく、日本は斷じて斯様になるべき心配はないと

信するが、平常の場合と異つて魔のさし易い時ではあるし、多くの政治家の内には理想的計畫を喜ぶ誇大妄想癖の仕事好きもあつて、随分輕率なことをやり兼ねない場合であるから、序に言及したまでである。不幸にして萬一コンナ事があつて、國際的乞丐のやうな境遇に陥るとすれば、自ら明治天皇の御遺志に背いて海外發展の路を鎖すものといはねばならぬ。或は一時に十何萬人も死んだのであるから、日本も當分人口過剰に苦むこともあるまい、といふものがあるかも知れぬが、日本は年々五十萬の人口が殖むつ、あつた事實を忘却してはならぬ。而して日本の生命の一半は平和的海外發展に繫つて居るのであるから、國力が弱くなり、外國に頭が上らぬ事になれば、此海外發展の路は塞がり、塞がれば自給自足も出来なくなるから、愈自滅か國際的乞丐の境遇を永續するの外はないことになるといふ事を斷じて失念してはならぬ。

### (七) 官民今後の覺悟如何

#### 臥薪嘗膽的自奮自立あるのみ

然らば今後の覺悟をドウすれば善いかと問はるれば、臥薪嘗膽的に自奮自立して國難を切り抜け、海外發展の路を擴げるだけの餘力を作らねばならぬと答ふるの外はない。シカシそれだけでは甚だ漠然たるものであるから、こゝに當局の反省を促すと同時に具體的に卑見を述べようと思ふ。

大變災によつて生れた山本内閣は、首相權兵衛伯を初として、勇斷果決の士、智謀湧くが如きの士、權變機略の士、博學多識の士を網羅したものであるといふ評判であるから、其施設は大震大火の吾人を驚かしたやうに、大に驚くべきものを示すかも知れない。イヤ

既に随分澤山示されて居る。

吾人は九月二日の午前に『大阪毎日』の編輯局を訪ひ、數人の幹部記者諸君と震後の經營について談論し、此際何故陸海軍は應急救済のために活動せぬであらうか、巨額の資を有する赤十字社は何故沈黙して居るであらうか、戦時でないけれども、慘害と混雜と困難とは、戦時以上の急施を訴へて居るではないか、外國には陸海軍が平時農業や商業や其他國民の必要に應じて働いた例が澤山あるではないか、日本でも出火の際に消防に助力するなき毎々見る所である、今度に限つて何故大に出勤して非常の急に赴かぬであらうか、御用船すらもマダ震災のために動いて居らぬではないか、且つ怪み且非難し、口角泡を飛ばす次第であつたが、間もなくして、震災地に戒嚴令が布かれ、各師團にも動員令が下る、海軍は全艦隊を擧げて各地より食糧物資其他必要材料輸送の任に當り、更に避難民の輸送

を引受ける、航空隊も亦風雨を冒して通信聯絡の任務に服する、シカも其活動の目醒しき、陸海軍貯藏の衣服、糧食、テント、其他の必要品をドシ／＼災害地に送る、陸軍は警備と物資配給の事に當る、従つて大演習の費用も皆これに向つて投ぜられ、之を以て大演習に代へたといふでもあるまいが、大演習は中止となつたといふ事實を見るに至つた。吾人は此陸海軍の機宜の處置、眞に深慮果斷の賜物である、流石は權兵衛内閣であるとならぬから感心したのである。シカも其任務を能く盡せる、曾て攻撃の府であつた軍隊が、市民から感謝を以て迎へられ、豫定の期日は來ても戒嚴令を解かぬやうに之を依頼せらるゝに至つて、初めて軍隊は軍閥の軍隊にあらずして國民の軍隊であるの事實を明にし其名譽の光を發揮したとを喜んだ。然しながら、勇猛果斷も、權變機略も、一步を間違へば飛んだ事になる。戒嚴司令官、憲兵司令官なきの突如たる大更迭を見るに至つた、何事の大事件か



思つたら、大杉殺害事件が憲兵將校によつて行はれたが爲であるといふのである。――

ところが此果斷と機敏とに似ず、折角海軍や其他の船舶が、全國民同情の結晶たる物資を山の如く輸送したにも拘らず震災救護事務局はドウしたのか、配給の敏速を缺ぎ、シカも物資は風雨の打つに任せられ、中には空しく腐敗したものも少くないといふに至つては、後藤内相理想の社會政策を裏切つたこと多大であるといはねばならぬ。これも亦吾人の義捐品寄贈者と共に驚かされた一ツである。

ソレから物資徵發令も善し、暴利取締令も善し、限地的モラトリウムも混雜の際必ずしも咎むべきでもない、應急施設として皆機宜を制したものであるが、一國と市とを混同し帝都復興の名の下に全國の力を此に傾注するやうに聲言されたに至つては、驚かざるを得なかつた。舉國一致内閣組織に敗れた内閣が、變災を機會に舉國一致の形式を復興審議

會に現はし、大関人大石翁までも羅致し來つて外交調査會以上の成績を誇る所、ナカ／＼やるわいと、是にも少なからず驚かされた。同時にコレは只の審議會ではあるまい、敵は本能寺にあるだらうと怪ますには居られなかつた。シカのみならず復興院なる大機關も作る、又其下に復興評議會を設ける、所謂山上山あり、路中路ありの類で、屋上にも屋下にも亦屋がある、成程理想的復興家屋の三層組織にある前兆かと、これにも痛く驚かされた。或は更に地下室、屋上庭園なども現れるかも知れぬ。然るに此内閣が、識者、智者、學者の多きに拘らず、憲法ソツチのけの有様、議會無視の姿で、續々緊急勅令を雨下し、物資供給令に非難を買ひつゝあるばかりでなく、一たび上奏した復興院官制案を樞密院の注意によつて撤回するのヘマをやつたといふに至つては、權變機略と勇猛果斷との力が、尙識者、智者、學者よりも強いのであるかと是にも痛く驚かされた。

山本内閣は今後も更に吾人を驚かし、内外の耳目を幾度も聳動させることであらうが、ここに山本内閣の考慮を乞ひたき事は、山本内閣の人々が自然の力の如何に偉大なるか、此變災によつて國家の機能が如何に脆く破壊されたか、而して之を回復するの如何に容易でないかを實驗せられた事を忘れないやうにといふ事である。(一)東京、横濱が、此大災害に逢つた時、通信交通機關は悉く破壊されて、何等の情報を外界に通ずるものもなかつたのではないか、シカも東京の震災火災のために潰滅したのは二分の一には大に足りない、無事に残つた部分が多いのではないか、シカも此大事件、大惨害を外界に知らせる何物も東京にはなかつた、一の無線電信も役に立つたものはなかつたといふではないか。若し東京の大火災が敵國飛行隊の爆彈攻撃の結果であると假定したならば、ドウであるか、通信施設についても、帝都の防備についても、更に大に考へねばならぬではないか(二)此破壊

された鐵道は勿論、電話、(東京大阪間の長距離線)も亦今日まで(九月廿六日)完全に回復されて居ないではないか、其回復力たるや實に遅々たりといふべしである(三)交通、通信機關斷絶の間における航空隊の活動は、果して其任務を十分に盡し得たか、一朝有事の際これと同様、もしくはヨリ以上の必要あるに會して、餘りに貧弱なる我が航空隊を自ら憫むの遺憾なきを得るか、是等國家の機能は之を回復し之を完全にするについて最も敏速を要し又遺算なきを期すべく、復興事業中の最急務に屬するものではあるまいか。

更に(一)救濟物資の保管及び配給の上に遺憾の點多かつた原因(二)警察力の頼むに足らなかつた理由(三)失職者に就職の道を與ふるの緩慢なりといふ譏のある事情なきは、平生使用せる官公吏の人物能力如何と、事變に處する法規の活用、機關の組織と共に併せて研究考慮し、國家社會の政策上、速に其改むべきを改むべきではあるまいか。

又(一)中央、地方の自警團、青年團が、變災の當時、如何なる働きをなしたか、これは政府として其訓練と能力と知識との三方面から十分に考査し、社會的教育の進歩改良に資すべきではあるまいか(二)新に憲兵司令官となつた柴山少將の訓示の中に、治安維持の大任を説き、「帝國の統治は立憲法治に存し斷じて不法行爲を許さざることを辨へ又徒に感情に走るを避け云々」といふことを、今更めて強調せねばならなかつたのは、何のためであるか、恐らく〇〇事件の起つたためであらうが、要するにコレは軍隊教育の上に何等かの缺陷の存することを暴露したものであるまいか、頗る遺憾の事である(三)之と同時に俄に朝鮮人愛護の聲を大にするに至つたのは、何故であるか、吾人甚だ之を遺憾とする。(四)殊に朝鮮人に關して種々の風説の行はれた時、政府は之を新聞紙に掲載することを禁じた爲に、「大阪毎日」「大阪朝日」といふが如き大新聞については、之を知ることが出来なかつ

たが、地方の新聞を手にするに及んで、盛に之を書き立て、居るのを見た、殊に關東地方のものにおいて左様であつた。政府の取締が是等の地方に行き届かなかつたためであらうが、所謂「頭隠して尻隠さず」の類で、コレは轉々して直に朝鮮にも海外にも傳はるのである、當該地方長官は何故かゝる有害の記事を取締らなかつたか、彼等は、地方問題以外、國家的觀念なきものであらうか、吾人は其能力を疑はざるを得ない、政府は宜しく是等の人物についても考査黜陟を嚴にするの必要があると思ふ。

此外政府は幾多研究すべき又直に改善すべき資料を有し居るであらう、必ずや國民を驚かし其耳目を新にすると共に、自ら驚き自ら耳目を新にすることが澤山あるであらうと思ふ。従つて市と帝都とを混同して復興事業に全國の力を傾注せんとするが如き、熱狂的又狼狽的謬想にのみ没頭する暇を有しない筈であると思ふ。

然らば政府及び國民は今後如何なる方針によつて進退すべきやといふに、之を

### 内政の方面よりすれば

吾人は左の如き註文を發するものである。

- 一、政府は宜しく速に通信、交通の機關を復舊し、國力の許す範圍内において其完全を期するの策を講ずべし
- 二、政府は帝都其他の復興に關して、國家に屬すべきものと、市、町に屬すべきものとを明確に區別し、其國家に屬するものについては速に應急的復興の策を講じて國家的機能の發揮に遺憾なからしめ、國力の回復と共に其完全を期することとし、市、町の復興に關しては其力に應ずる自然的回復に委し、止むを得ざる急需に對してのみ補助を與ふべし

- 三、政府は宜しく速に帝都に對する都市計畫を決定し、道路、運河、公園、交通機關、防火壁、建築制限等の廣狹、位置、範圍、標準を明示し、之に順應する自然的復興の便に供すべし

- 四、政府は帝都復興のために増税又は對外募債を企つべからず、政費節約、行政整理、新事業の中止、若くは繰延、寄附金、益金、剩餘金、基金等の運用によつて之を支辨すべし

- 五、政府は宜しく罹災失職民中より海外移民團を組織し之を伯刺西爾其他適當の地に送ることに努力すべく、失職者も亦此機會に決心して海外の新天地に同胞社會を樹立するの計を講ずべし

之についても種々の議論がある。其有力なものを見るべきは、伯刺西爾の要求する所

は農業移民であるが、今回の失職者は都市民で農業に適しないものが多いといふのである。けれども、都市民必ずしも農業に堪へないのではない、農民若くは農業に經驗あるもの、農家出身者等の多くを包含して居る。今廿二日までの調べによると、百七十萬の罹災者中、退京したものは百十萬人、其内郷里へ歸つたものは五十萬人であるといへば、五十萬人中五萬や七萬の農業に堪ふるものがあらうと思ふ。又農耕力作は左まで困難なものではない、自分の決心次第で、スグに慣れスグに實行され、永續する程、耐久力も増加し熟練の度も進むのである。殊に血氣の學生の如き、眞に壯圖を懷くものと思へば、此記念的移民は寧ろ學窓に親むよりも面白からうと思ふ、況んや母校も焼け就學の途暫く絶ゆるといふが如きものにおいてをやである。海外移住は或は學校におけるよりも貴き價値ある實際的學問で、且同時に實際生活に投ずるもので

あるから、成功期して待つべきではあるまいか。而して政府これを助け、移民會社これを援け、更に伯刺西爾に特別の交渉を以てしたならば、此變災時の事にて事は案外容易に成ると思はれる、シカも此團體は通例のものよりも優良團體であるであらう。吾人は政府と失職者と共に、協戮計畫、實行を見るに至らんことを希望する。此移住も亦一の新なる就職で、又愛國の一途である

六、政府は速に普通選舉法を制定するの計畫をなすべし

七、政府は宜しく華族制度並に貴族院令の改正を行ひ、不合理なる特權の存在を漸廢するの計畫を示すべし。これは吾人の久しき以前から主張する所で、現に拙著「孤立的日本の光榮」に説いて居るから、其詳細を此處に論ずることを避ける

八、華族、富豪、其他の罹災者にして、帝都に職業を有せざるものは、此際其郷里に歸住

し、地方自治、地方文化の中心たり又は後援者たるの任務に當るべし。これも既に屢々論じた所で、總てが中央に集まり日本をして腦充血に陥らしむるの弊を矯めるのよからうと思ふ。地方の不進歩と疲憊とは、之によつて幾分救はるゝであらう。但し是等の歸住者は、地方を華奢文弱に導くの勢力となつてはならぬ

九、學生及び一般青年は、私學、獨學、苦學を厭はず、寧ろ之を誇とするの風を起すべし。必ずしも官公立學校に學ばねばならぬといふ必要はないのである。自奮、自勉、自助によつて、獨學、苦學を重ね、偉人となつた例は古今東西に其例が澤山ある。殊に中學生位にもなれば、心懸け次第、獨學でも十分にやつて行ける、而してコレは職業の傍にも出來ぬことはない、『天は自ら助くるものを助く』といふではないか

一〇、官民一般、節儉、力行、勞働者も資本家も、協調を以て事に當り、篤實なる眞剣味を以て國家隆興の爲に努力し、斷じて階級鬭争の如き愚を繰返すことを避けるといふ氣風を起さねばならぬ。これには特に婦人の助力を要する。シカシ今回の變災に當つて兩陛下を初め奉り皇室及び一般皇族の示された御模範を仰ぎ見れば、此くの如き事は何でもない、當然の事であらう。従つて徒に對外崇拜、對外羨望の卑屈心に驅られて國難に處する同胞の決心を嘲るやうな間違つた思想を持たぬやうお互に戒めねばならぬ。即ち國家と民族との將來のために、所謂臥薪嘗膽の覺悟を定め、産業の發達、國富の蓄積に努力するは勿論、此災害によつて失はれたものを成るべく速に補充した上に餘力あらしめようと思ふべきものではない。國民の衷心から發する愛國的至誠の結晶でなければ到底ダメだ。絹織物課稅論の如きも愚論たるを免れまい。不

罹災各地方自ら進んで震火災を記念する力行的團體を起すが如きも最も妙であらう  
現内閣には更にこれ以上の名案があるかも知れぬが、吾人は先づ此位より外に註文がな  
い。然し

### 外政方面よりすれば

又復別に註文がある。試みに又列記しよう

- 一、政府は、華盛頓條約の有効期限内、成るべく早く同趣旨の第二回會議を開くの計畫をなし(災後の日本に開くことを不便とすれば米國若くは英國を主宰國とするも差支ない)華盛頓條約の有効期限を延長すると同時に、當時協定の出来なかつた補助艦艇、航空機などについて、同様の制限をなし、戦争回避、平和永續の計畫を完全にすべし、但しソレには日本の航空事業の發達を急速にし、佛、英、米との比率に

おいて均衡の取れる位までにして置かねば、却つて國防を危うするやうな事になるかも知れない。此邊は當局者の深く考慮し慎重に取捨すべき所であらう

### 二、日支親善を名實共に速に相適はしむるの計を講ずべし

之については官民共に支那の政體もしくは政争の如何に頓着せず、支那をして條約を善守せしめ、外人の生命財産の安固を侵害せざることを誓はしめ、之と同時に支那にあつて仕事をするものは、獨占的態度を取らず、出来るだけ支那人と利を分つやうにし、又支那において製造工業に従事するものは、成るべく支那の工業製品と衝突せざる種類、もしくは同種でも支那で出来ないやうな善いものを作ることに注意し、並立して共に相利する、即ち長短相補ふといふ方針を取り、且何人も常に支那人を敬愛して多くの友人を支那に作ることに心懸け、又實際卓越した人物に對しては衷心よ

り尊敬すること邦人もしくは歐米人に對すると同様にし、斷じて慢侮の念を以てしてはならぬ。殊に支那人を馬鹿にして彼等の最も重んずる體面を損するやうなことをしてはならぬ、コチラに大した利害得失がなければ、彼等の面子のためには讓歩する位の雅量あるを要する。従つて支那の主權は成るべく之を尊重し擁護するの方針を取り、同時に支那人をして親日と人種平等に基ける人道との關係を十分に了解せしめ、世界の平和を脅かすものは英米の如き差別觀に因する多きの理を呑み込ませねばならぬ。シカシ儼然たる條約上の利權の如きは一步も之を侵すことを假借してはならぬ

三、露西亞との國交を正當に回復することに努めよ。伊集院さんが外務大臣で、松平さんが其次官では、日露の國交回復は日支の親善のやうに旨く行かぬかも知れぬが、

ソレは寧ろ露國で熟考すべき所であるから、案外早く旨く行くかも知れない。カラハン氏の芳澤公使訪問も味ふべきである。尤も現内閣が何時まで續くか知れないが、日本の國策としては、露支何れとも親交を締するを必要とする。シカシ露西亞の輕侮や醜弄に甘んじて親交を求むるが如き態度に出ることは斷じて避けねばならない、救援船レーニン號拒絶の如き意氣は常になければならぬ

四、土耳其、其他、回教民族の自由發展に同情し正常なる後援を吝まざるべし。これも拙著「孤立的日本の光榮」中に説いてあるのであるが、近刊拙著「回教民族の大活動と亞細亞の將來」といふ内には、更に詳説してあるから此には略する

五、米國に對しては勿論であるが、中米、南米の諸國と特に親交を増進することを怠るべからず。これも「孤立的日本の光榮」中に擧げた一項目であるが、更に之を繰返



すのである

日本の政府當局も、一般國民も、以上の内外に對する註文に應じて呉れ、ば、日本は此國難を切抜け國際的乞丐のやうにもならないで、其威嚴を保つ裡に國力を回復し得るであらうと思ふ。

但し此方策に従へば、世の中は或は一層不景氣となり、東京市の復興も幾分か後れ、理想的帝都としての美觀は俄に望まれないこととなるかも知れぬが、吾人は一都市のために日本全國を忘れることは出来ない、殊に一時のために日本の國際的位置の困難を更に加ふるが如き樂天的氣分に安んずることは出来ない。東京の人々、或は理想的復興急進論者には怨まれるかも知れないが、藹藹の言も亦何かの参考になるであらう。「事を議する者は、身、事外に在りて宜しく利害の情を悉すべし、事に任ずるものは、身、事中に居りて當に

利害の慮を忘るべし」といふ言葉がある、此際大に味ふべきではないか。卑見も亦事に當つて熱せるものゝために一味の涼風ともならば望外の幸である。(大尾)

大正十二年十月十日印刷  
大正十二年十月十五日發行

震災後の日本

不許複製  
定價金五拾錢

著者 渡邊巳之次郎

發行兼印刷人 荒木利一郎  
大阪府豊能郡箕面村平尾七三七

印刷所 株式會社 大阪毎日新聞社  
大阪市北區堂島裏二丁目三六

發行所 大阪毎日新聞社  
大阪市北區堂島  
振替大阪四五〇番

同 東京日日新聞社  
東京市丸ノ内  
振替大阪四五〇番

大 阪 毎 日 新 聞 社 發 行

英文「東京日日」編輯長 稻原勝治民著

# 不安なる世界相

戦後外交の歸趨

四六版・舶來茶クロス・金文字・美裝

定價 金二圓 送料十錢

本書は紛糾錯綜せるヴェルサイユ講和會議以後の外交を捉へて、何人にも分り易く、明快縦横の筆を以てその真相を詳述しこれが歸趨を示したもので近世世界外交史大系とも稱すべきものであります。戦後の外交を日本人の立場から體系的に述べ、日本民族としてこれに處するに如何にすべきやを明示した所に本書の光焰があります。文章は著者獨特の明快輕妙を極め最初の一頁を眼にすれば、興味に牽かれて覺わす最後まで讀み通さざるを得ざる所に著者の誇があります。自信をもつて讀書家にお勧めします。

各 地 大 阪 毎 日 東 京 日 新 聞 社 次 店 ・ 大 阪 毎 日 代 理 部  
並 各 書 店 販 賣 切 り 節 本 社 へ 御 申 込 ぶ

393  
460

終

發行所  
大阪毎日新聞社